

社会的養護における人材育成等に関する研究

—2018年3月全国調査の速報(2018年5月8日時点)—

○ 神奈川県立保健福祉大学 新保幸男(1599)

小林理(東海大学・3505)

人材育成、倫理綱領、スーパービジョン

1. 研究目的

全国の乳児院・児童養護施設・母子生活支援施設で仕事をしている保育士・児童指導員などの常勤専門職の全員を対象とする調査であり、①専門職としてのキャリア形成、②専門職としての能力についての自己評価、③現在受けているスーパービジョン、④職場環境などについて回答していただくことで、その回答結果を統計的に解析し、その結果に基づいて、社会的養護分野における常勤専門職が、「自らの専門性」「仕事への思い」「働く環境」などをどのように自己評価し、どのような思いで日々の仕事に取り組んでいるのかについての現状を把握することを目的としている。

2. 研究の視点および方法

「調査票」については、フェイスシートのほかに、「自らの専門性」「仕事への思い」「働く環境」など50項目を設定し、それぞれ1~10の数字(得点が高い方が高評価)で回答いただくという方法で実施した。「調査方法」については、郵送法による無記名調査であり、想定される調査対象者数を若干上回る調査票を施設長宛に配布し、施設長から調査対象者に「封筒に入った調査票」を配布していただき、調査対象者自らが記入した調査票について、調査対象者自ら返信用封筒に封入し、研究代表者宛に直接投函いただくという方法を採用した。

今回の報告においては、2018年3月に実施した本調査結果の速報として、「全ての調査項目が有効回答であった」調査票のうち、早い時期に回収された5千通について、「倫理綱領」「スーパービジョン」に関する部分を中心として報告させていただく。

3. 倫理的配慮

本研究は、「一般社団法人日本社会福祉学会研究倫理指針」の規程に沿って実施した。また、神奈川県立保健福祉大学研究倫理委員会による承認(保大第29-57)を得たうえで本研究を進めた。

本研究は平成28年度厚生労働科学研究(H28-政策-指定-007 研究代表者新保幸男)の助成をうけて3ヶ年計画で実施している。

4. 研究結果

(1) 5千人が回答した有効回答である50項目のサンプル数は25万であり、その平均得点は6.1762点、標準偏差は2.3227点であった。

(2) 専門性・スーパービジョン・職場環境の概要(高得点項目)

10点満点で8点以上と高い得点であった項目は次の2項目である。1つは「児童を理解

しようとしている」(8.47点)、もう一つは「自らの専門性をより高めようと思っている」(8.35点)であった。

次に高い項目は「社会的養護分野の仕事に誇りを感じている」(7.69点)、「同僚に仕事の相談をすることができる」(7.49点)、「自分(あなた)自身を理解しようとしている」(7.46点)、「幸せである」(7.01点)、「スーパービジョンを積極的に受けたいと思っている」(7.01点)であった。

(3) 専門性・スーパービジョン・職場環境の概要(低得点項目)

「職場外でスーパービジョンを受ける機会が十分ある」(4.70点)、「地域資源の活用に関して、自らの専門職としての能力は高い」(4.78点)、「制度理解に関して、自らの専門職としての能力は高い」(4.81点)、「自分の年収に満足している」(4.86点)であった。

次に低い項目は、「休暇を取りやすいと感じている」(5.02点)、「他の施設・機関との連携に関して、自らの専門職としての能力は高い」(5.03点)、「専門職団体の倫理綱領の内容を日々の実践の中で実行できている」(5.09点)であった。

5. 考察

(1) 倫理綱領との関連について

50項目の中に倫理綱領に関する事項が4つある。この4項目に関する平均得点は5.2254点であり、50項目全体の平均得点である6.1762点よりかなり低い。「専門職団体の倫理綱領の内容について詳しく知っている」が5.36点、「施設協議会などの倫理綱領の内容について詳しく知っている」が5.31点であり、全体の平均得点より低く、かつ両者の得点はほぼ同様である。長い実践活動を積み重ねて「専門職団体」「施設協議会」が設定した倫理綱領であるにもかかわらず、「知っている」「実行できている」共に低い得点であることは、研修などで「倫理綱領」についてより詳細かつ実践的な内容を工夫する余地があることを示しているように思われる。

(2) スーパービジョンについて

50項目の質問のうち最も低い項目が「職場外でスーパービジョンを受ける機会が十分ある」(4.70点)であった。また、「スーパービジョンを積極的に受けたいと思っている」(7.01点)については、高い得点であるので、スーパービジョンを受けたいけれど受けにくいという現状があることが読み取れる。データから読み取れる現状は「スーパービジョン」は不十分だけれど、「仕事の相談」はある程度できるという状況にあることを示している。「自らの施設・機関は、他の同種別の施設・機関と比べて、専門性の水準が高い」(5.70点)「自らの専門性を高めやすい職場」(6.09点)はいずれも平均得点よりも低く、「仕事の相談」ができるという段階から「スーパービジョン」を定期的に受けられることができるという段階に移行することで、「自らの専門性をより高めたいと思っている」(8.35点)という当該領域で働く常勤専門職の思いを実現することで、「今の仕事を続けていきたい」(6.47点)という得点がさらに上がることにつながるのではないかとと思われる。